

2022 年 11 月 27 日(月)

## フィンランド文化考

フィンランドと言えば、社会福祉や教育力、IT 産業で注目されている国ですが、サウナを思い浮かべる人も多いでしょう。昨年のテレビドラマ『サ道』\*の影響もあり、全国的に第3次サウナブーム到来と言われています。国会議員の間でも超党派のサウナ振興議員連盟(会長には「話題」の元総務相が就任)が発足したと、先週のニュースで報じていました。

私が初めてこの地に足を運んだのは 40 年前のこと、当時フィンランド中部にあるオウル Oulu 大学に留学していた友人(現、東海大学文化社会学部教授)\*\*を訪ねて、ほぼひと夏を北欧で過ごした時のことでした。当時はフィンランドの経済も教育も旧態依然としており、今ではヨーロッパの中心に世界的な IT 企業となったノキアも農機具を製造するローカルな会社でしたし、フィンランド式教育もまだまだ出来上がっていませんでした。たまたま訪問した学校では、「歴史」の授業に『聖書』を用いて説明しているほどでした。ただ、道路、公園や山野では短い夏を惜しむかのようにジョギングやスポーツを楽しんでいたり、博物館や図書館などでは手が空くと老若男女を問わず毛糸の織物に勤しんでいたりする姿が、印象に残っています。

また、「森と湖の国」と称されるフィンランドでは、都市部を除いて、どこでもキャンプが可能で、短い秋を迎えた 8 月終わりともなれば山野でのキノコ狩りが盛んに行われていました。湖や海などの傍には丸太造りや木造のサウナ小屋が多数あり、暖まった身体をすぐに水面で冷やす姿が見られました。

アパート住まいのわが友人宅でも共用サウナがあり、廊下には住人のために週単位のサウナ利用時間割の掲示板がありました。もちろん、居候である私も一緒にサウナを利用させてもらいました。聞くところによれば、アパートや大学の寮でもサウナ設置が義務づけられているとのこと、一般家庭のほとんどにサウナが備えられており、2000 年という歴史の重みを感じた次第です。最近の調査によれば、フィンランドは人口約 550 万人に対して公衆サウナが約 300 万施設もあり、1.6 人に一つのサウナがあることになります。日本では 3050 人に一つだそうですが…。

フィンランドの首都ヘルシンキから車で5時間余り、湖水地方の中心都市ユヴァスキュラ Jyväskylä には、国内各地の26のサウナが移設されたサウナの博物館のような施設があり、さまざまなサウナが体験できます。



Saunakylä, Jyväskylä

フィンランドのサウナと言えば、世界遺産に登録(2020年)されている「スモークサウナ」が有名です。これは小屋の中には煙突のないストーブが置かれ、ここで木材を燃やして何時間もかけてサウナ全体を温めるものです。煙突がないため部屋中が煙であふれ、天井は煤で真っ黒になるため「スモークサウナ」と言われています。サウナでは、サウナストーンにアロマの入った水を掛けて水蒸気を出し、体感温度を高めます。これを「ロウリュウ Löyly」と言います。さらに、暖まった体を、乾燥させたシラカバの小枝を束ねたヴィヒタ Vihta で叩いて血行をよくする習慣があります。本来は、アロマを使わず白樺やミズナラなど香りのある木を使っていたそうです。

もう一つ、フィンランドを代表する言葉を挙げるとするなら、「シス Sisu」でしょう。日本語に変換することがなかなか難しい言葉ですが、あえて訳すなら「粘り強さ」または「勇敢さ」という言葉になるのでしょうか。北緯60～70度に位置するフィンランドは、極寒で暗くて長い冬を耐えなくてはならず、厳しい環境に対応する心の持ち方としてシスという言葉が生まれたと思われます。ヨーロッパの北西に位置し、アジア系言語を使い、強国ロシアと国境を接するフィンランドならではの言葉、国民性とも言えます。

さて、高校3年にとっては、12月の特待生試験から大学入試の一般選抜がスタートします。また、在校生にとっては週末から期末考査を迎えます。今の皆さんに必要なことは、試験の結果ではなく、正に Sisu なのではないでしょうか。諦めずに最後まで粘り強く、努力を続ける皆さんを心より応援しています。さあ、やろう！

\*原作は、タナカタツキ(2019)『マンガ サ道』全6巻、講談社

\*吉田 欣吾教授:日本では数少ないフィンランド語、ラップ語の研究者。著作多数。